

### 1.【担当者】

石井 拓洋 (いしい たくよう)

ishii05042@venus.joshibi.jp

専門：音楽文化学研究、映画音楽研究、アメリカの音楽と文化、作曲。

### 2.【大学院生 = 研究的視点とその技術の習得の必要性、そして、ひたすらインプット】

- 純粋なる作家には、本来、芸術の大学院や芸術の学位は必要ない（さらなる技術習得は実務や弟子入りしたほうが合理的？）
- 一方、大学院へあえて進学するという事 = 芸術の専門家を志す確信犯 = 作家性 + 〈研究的視点とその技術〉の必要性
- 研究の本質 ~ 「現状から意義ある問題点を見出す」こと（その常識は本当か？ その善が実は悪では？ 疑うことの重要性）
- 意義のある問題意識に至るためには（西洋芸術を専門とする者として、、、）
  - ・世界、特に西欧を知る（文化、宗教、歴史、思想、科学、政治、環境、） ここには豊富に批判対象が含まれているはず
  - ・「近代」を知る（西欧の「近代主義」が「芸術」の概念をつくった） 近代批判から芸術を再考する可能性
  - ・先人たちの問題意識を知る（作家、思想家、研究者、作品、、、） 何が問題とされてきたのか？ 何が解決されていないのか？
  - ・多くの「物事の見方」を知る（ex. 批評理論、カルチュラル・スタディーズ、構造主義、構築主義、ジェンダー、記号論、、、）
- 客観的事実に基づいた「インプット」（知識の取得）が必要。インプットのない安易な「独創性」で語らない。院の段階では。
- 一方、実証的学術研究の限界もまた感じたい（ここに作品制作の意義？）。研究と批評の違いを知ること。

### 3.【なぜ「記号論」か？】

- 代表的な「物事の見方」の一つとしての「記号論」 semiology
- 記号 (sign) とは、視覚や聴覚を伴うものによって、何らかの対象を示すもの
- 記号 (言語) には本質的・普遍的意味は内在しない。
  
- (なぜ記号が意味を持ち始めるのか？ = 意味論の議論)
  - 記号の意味は文化や社会の中で創り出される
  - 私たちの「インタラクティブ」な営みから創られる（関係から意味がつくられる）
  - 記号が何を指し示すかは本質的ではなくて、関係論的に決定される（実体論から関係論へ）
  - 特殊地域的・時代的に「たまたま」な繋がりだけに、自由な意味生成の可能性あり
  - 「表現」の意義を考えるために「記号論」は有効である
  
- 「言語論的転回」= 「記号 (言語) が対象の認識や意味をつくる」という視点
  - 人間は言葉によって世界が認識をつくる

### 4.【「記号論」：意味を伝達する〈表現〉を考えるための方法】

- そもそも表現とは記号の創出であり、そこには伝達を意図する〈意味〉が託されている。
- 「表現行為」の根幹となる「記号」と「意味」を、人間社会のインタラクティブな営みから探ることであらためて「アート」の在り方について考えてみたい。

#### 念のため注意!!!

この演習は「記号論」という、代表的な〈研究的視点〉の存在を、とにかくまずは知って欲しいというもの。  
決して、この視点こそが〈最も正しい〉とか、〈そのように考えるべき〉、のようなことを言っているのではない。